

研究速報

肝胆道系悪性腫瘍における血中 protein induced by vitamine K absence or antagonist-II 測定の臨床的意義

金光敬一郎 平岡 武久 内野 良仁
宮内 好正 本原 邦彦\* 松田 一郎\*

特発性乳児ビタミンK欠乏性出血症において血中に出現するプロトロンビン前駆体である protein induced by vitamine K absence or antagonist-II (以下 PIVKA-II と略す) が肝細胞癌患者の血中に高率に検出されることが Howard<sup>1)</sup>らにより報告されたが、われわれは本原<sup>2)</sup>らが開発した抗 PIVKA-II モノクロナール抗体を用いて、ELISA 法にて肝胆道系悪性腫瘍患者の血中 PIVKA-II を測定し、若干の知見を得たので報告する。

対象：最近9カ月間に PIVKA-II を測定した肝細胞癌24例、胆管癌6例、転移性肝癌8例、肝硬変20例であり、PIVKA-II 測定は0.13A.U. (arbitrary unit)/ml 以上を陽性とした。

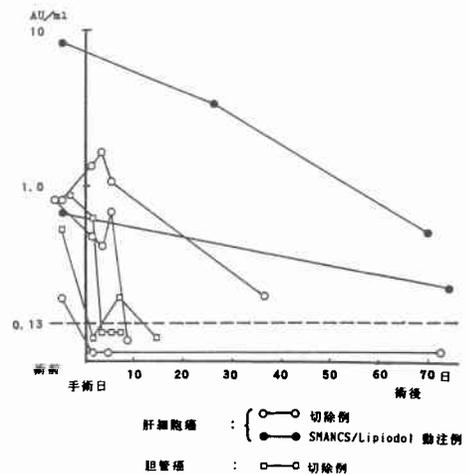
結果：PIVKA-II の陽性率は肝細胞癌66.7%、胆管癌100%、転移性肝癌87.5%、肝硬変40%であり、今回は特に肝細胞癌と胆管癌の血中 PIVKA-II について検討した。

肝細胞癌：Vitamine K の吸収に胆汁が必要なことから PIVKA-II と黄疸との関係を見ると、全く相関せず、腫瘍径との関係でも相関はみとめなかった。AFP 値との関係では相関をみとめたが、AFP 値200ng/ml 以下の症例での PIVKA-II の陽性率は72.2%で AFP 低値例でも高率に陽性となった。PIVKA-II 陽性患者中切除または SMANCS/Lipiodol 動注例で PIVKA-II の経過を追えた5例では術前に比べ全例術後 PIVKA-II 値が低下した。

胆管癌：無黄疸症例は3例(1例は外胆汁瘻)であった。全6例の CEA と PIVKA-II との関係では相関はみとめず、また切除できた無黄疸2症例につき PIVKA-II の術前後の推移をみると、2例とも術後に陰性化した。

考察：肝細胞癌では腫瘍マーカーとして、AFP が測定されてきたが、最近 AFP 陰性例や低値例が経験される。今回の検討では AFP との相関はみとめたが、AFP 低値例でも高率に陽性となり、治療により PIV-

図 肝胆道系悪性腫瘍治療後の血中 PIVKA-II の推移



KA-II 値が低下することも確かめられたことから、PIVKA-II も肝細胞癌の指標になりうる可能性が示唆された。一方胆管癌では特異的な腫瘍マーカーの無いのが現状であるが、無黄疸例も含めて全例に陽性で、切除例の術後の PIVKA-II 値は陰性化していることから、PIVKA-II は胆管癌の診断および術後の経過観察の指標となりうる可能性が示唆された。

今後さらに症例を重ねて、PIVKA-II の肝癌、胆管癌における有用性について検討したい。

索引用語：血中 PIVKA-II

文献：1) Howard LA, Babara FC, Myron TJ et al: Des-r-Carboxy (Abnormal) Prothrombin As A Serum Marker of Primary Hepatocellular Carcinoma. Engl J Med 310:1427-1431, 1984 2) 本原邦彦, 黒木由美子, 菅 博明ほか: 乳児ビタミンK欠乏性出血症—第2報; 抗 PIVKA-II モノクロナール抗体を用いた ELISA 法による血中 PIVKA-II の定量. 日小児会誌 88:1508-1514, 1984

PIVKA-II AS A SERUM MARKER OF CANCER OF THE HEPATOBILIARY SYSTEM

Keiichiro KANEMITSU, Takehisa HIRAOKA, Ryojin UCHINO, Yoshimasa MIYAUCHI, Kunihiko MOTOHARA\* and Ichiro MATSUDA\* First Department of Surgery Kumamoto University Medical School, \*Department of Pediatrics Kumamoto University Medical School

<1985年11月12日受理> 別刷請求先: 金光敬一郎 〒860 熊本市本荘1-1-1 熊本大学医学部第1外科